

# カトリック八尾教会ニュース 2023年4月



“**主は復活された、アレルヤ!アレルヤ!**”

こんげつ よてい 【今月の予定】	じかん ミサの時間	Tháng tư
* 聖週間 (聖木曜日より、マスク着用ご協力の上、聖歌は歌い、お祈りを唱えてください。)		
* 2日(日) 受難の主日(枝の主日)	9:00 11:00	①グループ(A+B 地区+ベトナム1) ②グループ(C 地区+ベトナム2+3)
* 6日(木) 聖木曜日(主の晩さん)	19:30	全グループ
* 7日(金) 聖金曜日(主の受難)	19:30	〃 <大齋・小齋>
* 8日(土) 祭 復活徹夜祭	19:00	〃
9日(日) 祭 復活の主日	9:00 11:00	②グループ(C 地区+ベトナム2+3) Γ 洗礼式 ①グループ(A+B 地区+ベトナム1) 初聖体式
16日(日) 復活節第2主日	9:00	①グループ(A+B 地区+ベトナム1)
L (神のいつくしみの主日)	11:00	②グループ(C 地区+ベトナム2+3)
ベトナム語のミサ	15:00	
23日(日) 復活節第3主日	9:00 11:00	②グループ(C 地区+ベトナム2+3) ①グループ(A+B 地区+ベトナム1)
30日(日) 復活節第4主日	9:00 11:00	グループ合同通常ミサ グループ合同子どもとともにささげるミサ

■ 平日のミサ 木曜日 10:00 20日、27日 (6日、13日はお休み)

■ 四旬節黙想会に参加して (3月5日10時~) (信徒 R.N.)

「信仰を深めるのは方法でなく、祈りと経験を通して深め得ていくもの。同じ信仰を持つ者として喜んで働き生かしてくれるのは聖霊で、信者は神様の目を通して物事を解釈していきます。イエス様はその模範です。」と崔神父様は語られました、ご自分の苦しみの経験をとおして、苦しみと信仰についてお話しされました。「信仰を持てばすべて良くなり苦しみがなくなるわけではなく、苦しみの原因が分かり、かえって信仰を持つ前より苦しみの存在は大きくなるかもしれません。しかし、その中で幸せを感じるのは試練の中でイエス様の十字架と共に歩むからです。」「キリスト信者にとって一番大事なものは聖書、ごミサの中で歌われる答唱詩編は、昔ユダヤ人が苦しみ、救いを求め叫び続けた結果やっと神様が応えてくださったことに対して喜びをもって歌います。信仰は受け答えです。」 遠い昔ユダヤ人が救いを求めて歩んだ道を今私たちも神様の言葉を聞こうと同じ道をたどっていることを思うと、神様の愛と長い時代の重さを感じました。最後に、「祈りましょう！神様の素晴らしさは教わるものではなく祈りと経験を通して分かるものです」とお話を結ばれました。崔神父様が、神様の素晴らしさを伝えたいという熱意が講話の間中感じられました。「神様を生活の中心に…」は、神様を横に置き自分の楽しみをつい優先してしまう自分の姿を思い出し、耳が痛い言葉でした。特に四旬節の今、神様を求め、祈りたいと思いました。

【訃報】 ◎フスト.セグラ神父様 3月5日 帰天 89歳  
(スペイン外国宣教会) かわちブロック及びビアンネ館居住時、共同司牧。



神のみもとで安らかにいこわれますように…

『何を聴こうかな、今晚』

崔 周永神父

ロック音楽。と聞くと、皆さんは何を思うかしら。チェーンや金属をいっぱい付けた衣装で、ロングヘア、革のスキニーパンツの白人男性を思い出すかもしれない。音楽を幅広く感想していると思いついていたが、割と決まった曲だけ聴いている、とのことに最近気づいた。クラシック、ジャズ、ソウル音楽、K-pop、それにロック！この他にもちょこちょこと、他のジャンルの音楽を聴いていただろうが、朝起きて出勤するまで、仕事から上がったからの夜に聴く音楽が大体決まっているのだ。ロックだ。

1980年代を、ポップ音楽の黄金期と言っている。それに全くもって同感だ。何故なら、その時代の音楽は、ある意味で純粋だった。ファーストとベースのエレキギター、ドラム、シンセサイザー、それにヴォーカル。旋律、リズム、人間の歌声が編み合う音楽。シンセサイザーは当時においては、導入されてもない楽器で、バンドで出きる音の領域を幅広くしてくれた。バンドにおいて鍵盤楽器というと、シンセサイザー！音色を自由に変え、それに色々な音響効果を乗せることができる。前奏が、シンセサイザー音で跳ねるように出てくる時、中学生だった私はどれ程の幸せを感じたのだろう。その時に聴いていた音楽が、傷のように、烙印のように、その先もずっと残ること、それに気づくはずもなかったが、苦しみまみれの、自分の体の一部になっていると今になって、ようやく分かる。音楽を聴くっていう行為、取り分け、人生の大事な時期に聞き込んでいた音楽に、私たちは、まるで里帰りするような気持ちで戻るのだ。何故？懐かしいから！

1980年代、当時の自分を取り巻いていた、どうしようもなく、しんどく、つまらなかった現実が過去という牢に永遠に封じられ、今は安全に、その過去の中に思い出として入ることが出来る。音楽は、そこへの鍵なのだ。音楽で開けて入ったそこには、苦しんでいる、泣いている自分がある。自分の力では何もできることは無く、ただ、その酷い時間を過ごし切れるように、切に祈っている自分に出会う。その時間を、シンセサイザーの明るい足音が、エレキギターの鳴き声が、ドラムの鼓動が、自分に生きていくのだと励まし、背中を押してくれた。素晴らしい音楽！ぼうっとして、天井の角を見上げながら、頭の中では音楽が鳴り響いていた。動きもせず、天井の角に目を据え、自分が夢にも望んでいた未来を見ていたのだろう。自由！解放！時間が経った。Spotifyで、YouTube Premiumで80年代の音楽を探して聴き、ループ設定で延々と聞く。故郷に帰り、その時の自分に出会う。と同時に、今の自分に出会う。その間の変化は実に著しい。



その少年・青少年は、今は、自由に生きている。

今晚、皆さんにこの一曲！ 「Over The Rainbow」 Impellitteri !